

天溪 2025 年「ツール・ド・モンブラン 11 日間」

2025 年「ツール・ド・モンブラン 11 日間」を7月7日～7月17日に行いました。

今年の欧州各地は6月中旬頃から熱波に見舞われ、山火事多発などのニュースが流れました。事実、直前の天溪ツアー「花のスイスアルプス10日間」は高い気温と乾燥した晴天に恵まれ、絶景のアルプスハイキングが楽しめました。ところが欧州を縦断する長い前線が7月7日未明に通過すると寒気が入り、気温が一気に急降下。下の写真は7月8日シャモニー針峰群の夕暮れです。夕日に照らされ山稜は美しく輝いて見えますが、標高2200m辺りまでスノーラインが降りて来ました。



(夕日に輝くシャモニー針峰群 7月8日)

○シャモニー～クールマイユール

ボンノム小屋が手配出来たので7月9日 ノートルダムラゴルジュからスタート。この協会の外壁を見回すとホタテ貝マークが！こんなところにもスペインのサンチアゴ・デ・コンポステーラに向かう巡礼街道が通っていたとは驚きです。空気を入れ替わり涼しめなトレイルを進み、急坂を詰めるとボンノムのコル2329m。この辺りから昨日の新雪が心配でしたがトレイル上の雪は殆ど溶けて無し。アルプスは北極海方面から寒気が南下すると夏でも降雪が有ります。

翌日は1日の歩行距離が一番長い力技の日。朝7時前に出発し、一端シャピューに下りシャトルバスでグレッシェールに移動。高度差500mの尾根を登るとフランス・イタリア国境のセーニュのコル2515m。午後にも拘らず寒気のせいか雲のない綺麗なモンブランが出迎えてくれました。コルからエリザベッタ小屋下、コンバル湿原、更にビザイルへ長い下り坂が続きます。



(セーニュのコル7月10日)



(エリザベッタ小屋下 7月10日)

○クールマイユール～エレナ

今日は2日間の疲労回復を兼ね、シェクルイの科尔周辺を軽めのハイキングと考えましたが、何故かバスでビザイルへ。前日通った道をコンバル湿原まで戻り、分岐を左折し急坂を登るとモンブランの眺めが良いシェクルイの科尔上部 2303m。このルートを通ったお陰で「ノートルダム・ラ・ゴルジュ～クールマイユール」のハイキングルートが繋がりました。このルートと明日歩く「クールマイユール～エレナ」は凛々しいイタリア側のモンテビアンコやグランドジョラスが望めます。7月12日はクールマイユール山岳マラソンと重なり、選手に声援を送りながらデルトーネ小屋、更に山腹をトラバース気味に進みボナッティ小屋へ。眼の前のグランドジョラスに圧倒されます。一端バス道路まで下り、バスで5分ほど揺られ、再び山腹のトレイルをエレナ小屋に向かいました。



(グランドジョラス山群 7月12日)



(ボナッティ小屋にて 7月12日)

○エレナ～フレジュール

7月13日は1週間前からの雨予報がピッタリと当たり夜中に天気が激変、濃霧の急坂を進むとフェレのコル 2537m。ここはイタリア・スイス国境ですが相変わらず霧の中。ところがスイス側に少し下ると霧が晴れスイスの山並みが現れました。不思議な事なのか偶然なのか、この地は何時もイタリア側よりスイス側の天気が良い所です。

翌朝フォーリからシャンペ に車で移動。天気予報は朝8時頃から回復でしたが登山開始早々局地的なシャワーに小1時間やられました。このツアーでたった一つの敗北です。遙か先に見えるバルム小屋を目指して登るとスイス・フランス国境のバルムのコル 2191m。再びモンブラン に再会するはずが頂は雲の中。ル・トゥールに下り、シャモニー谷対岸のフレジュール小屋へ。天気の回復は予報より大幅に遅れたものの美しいモンブラン山群が現れました。



(モンブラン 7月14日)





(エギュードミディ7月14日)

○最終日

夕焼け時のモンブランに巨大なレンズ雲が出現。天気悪化の前兆だったのか最終日7月15日は重い空。しかし、何とか持ってくれて無事にプランプラに到着。ここで私達の2025年ツール・ド・モンブランは無事に終了です。

多少不安定なお天気は有りましたが、ツアーを通して素晴らしい景色を見せてくれたモンブランに感謝です！



(モンブラン山群 7月15日)

次回は「ピレネー国境横断ハイキング11日間」7月16日～7月26日をお伝えします。

天溪/赤沼